

あの時、私は

沖縄県立那覇西高等学校三年 宮里 ありさ

暖かな島風が運ぶ三線の音色
鮮やかなサンゴが魅せる美しい海
島酒を片手に踊る、オジーオバーの賑やかな
カチャーシー
そんな沖縄に近づく、
軍靴の響き

七十八年前のあの日、突然、全てが奪われた

あの時、私はとにかく走った
雨のように降る火の粉から必死に逃れるように
泥だらけの素足のまま、たった一人で
それでも走った
生きるために

あの時、私は野草を食べた
人目を盗んで少しでも食糧をと
夜の暗闇へ消えていった姉
悲しみを分かち合う暇もなく
姉の分まで逃げ続けた

あの時、私の心は墨と化した
ジリジリと照りつける太陽が傷跡を鮮明にする
ハエのたかった人を見ても
武器を提げた兵隊さんを見ても
もう、いっそのまま：

この広い大空の下で、どれだけの人の命が奪わ
れたのだろう
強い痛み、ひどい苦しみに耐えたのだろう
どれだけ憎しみ合ったのだろう

あの時、私は歌う

「兵隊さんよ、ありがとう」
必死に戦い続けたあなたは
「お国のために死ぬのがいい」
教えられたのは、

「捕まるなら、死を選びなさい」

殺したくなくても殺さなければならぬ運命
そんな歪んだ世界が
そこには確かにあった

私の心に灯り続ける命
この地に残る道標
そして記憶
赤く黒く包まれた空に、大地に、海に
私は祈り続ける

この命を、この悲しみを、忘れることはできない
繋がる命
繋げてきた命

あの時の私の、生きてきた証
「大切に生きなさい」
願いを染めるオバーの細い声

あの時、私は今を生きたく
懸命に生きたく

今日は、
誰かの生きたかった今日
明日は、
生きたくても生きられなかった明日

あの頃と変わらないのは
私の想い

今を生きるのには意味がある
平和への想いを奏でよう
ここ沖縄から
未来を生きる者へ
そして伝えよう

「命どう宝」の心を

私のその鼓動を胸に刻み、世界へ問い続ける
「あなたは今、幸せですか？」

あの時の私に誓う

「もう二度と繰り返すまい」と。